

地方に

日曜論壇

みやち 宮地アングス

2020.4.19



生動物が人
している野
ルスに感染
ため、ウイ
が近くなる
また、人間と動物の生活圏

新型コロナウイルスの感染
拡大が続くが、このような未
知のウイルスに人間が感染す
るのは、森林破壊が原因だと
主張する専門家の記事をよく
見掛ける。
彼らの説明はこうだ。石油
資源などの採掘や森林伐採に
より森林が破壊されると、野
生動物の住む範囲が縮小す
る。すると、異なる生態系が
密集して生活するようになる
ため、コウモリのようにウイ
ルスを多く保有する野生動物
から他の動物にウイルスが伝
染しやすくなる。

間に捕獲される可能性が高ま
る。その結果、ウイルスを保
有した野生動物が市場に持ち
込まれ、市場内で他の動物や
人間に広めてしまうのだ。野
生動物の取引も問題ではある
が、一番の原因は進行する森
林破壊だと専門家は主張して
いる。これが正しければ、今

環境の視点で誘客戦略を

後未知のウイルスの感染を防
ぐには、森林保護についても
考えなければならぬ。

ところで、4月22日は地球
の環境について考えるアース
デーである。

今年で50年目を迎えるア
ースデーは、国連や各国の大学
博物館、環境団体などが協力

し合い、二酸化炭素排出、地
球温暖化、森林破壊、空気汚
染、海洋汚染など地球が直面
するさまざまな環境問題につ
いて考える日である。新型コ
ロナウイルスの感染拡大に直
面している今、新たなウイル
ス感染を防止するためにも、
各国の政府や企業が森林保護

について真剣に考えてくれる
ことを願う。

しかし、アースデーのよう
な年1回のイベント以外に
も、私たち一人一人が自然の
大切さを五感で感じることも
重要だ。旅先で美しい自然を
見たり、滞在先で自然保護の
取り組みを知ったりすること

今後、新型コロナウイルス
が終息し、県内で観光誘客の
再スタートを切る時が来る。
その時に「栃木県らしい観光」
を打ち出すことが重要だ。本
県は自然環境と関わりが深
く、エコツーリズムに適して
る。

で、環境を守る心構えが築か
れるという調査結果もある。
自然を探訪し環境について楽
しく学ぶ旅のスタイルをエコ
ツーリズムと呼ぶが、環境保
護に対する知見を広め、森林
や地球環境の保全について考
えるきっかけとして、重要な
効果を発揮するのだ。

例えば、日光国立公園や奥
中樞が揺らぐ例も出た。富
山市民病院ではこれまでに
看護師や患者ら関係者20人
以上が陽性に。接触した恐
れのある医療従事者約20
0人も自宅待機の状態だ。

「コロナ患者への対応は
通常に比べ格段に負担感が
大きい」と回答したのは奈
良県。診断確定までに時間
がかかり、その間はベッド
が埋まって新たな患者を並
け入れられない。ウィル
スが外に漏れない「陰圧室
への隔離や防護服など医
資材の確保、管理にも多
くの人手が割かれ「病院運

日光、那須、渡良瀬遊水地の
ように、保護された豊かな森
林や湿地などの自然がある。
足尾には環境破壊と歩んだ歴
史や遺産が残っている。そし
て、全国に先駆けて県内の全
市町が共同で行った「プラご
みゼロ宣言」(脱プラスチック
運動)のような進んだ環境
保全の取り組みがある。

このように「現在」の自然
保護、「過去」の歴史、「未
来」に向けた取り組みがそろ
っている。環境保全の取り組
みに磨きをかけ、エコツーリ
ズムをさらに充実させれば、

(ジャパン・ワールド・リ
ンク社長)

迫る満床、足りぬ防護品

新型コロナウイルスの感染者急増で、医療崩壊の危機が地方に波及しつつある。病床が
続々と埋まる一方、マスクや手術着は不足し、院内感染が拠点病院を直撃する事態も発生。
大都市圏に比べ医療機関や医師、看護師の数が限られる中、地域医療を維持できるかどう
か、重大な岐路に立たされている。

▼負担感大きく

「コロナ患者への対応は
通常に比べ格段に負担感が
大きい」と回答したのは奈
良県。診断確定までに時間
がかかり、その間はベッド
が埋まって新たな患者を並
け入れられない。ウィル
スが外に漏れない「陰圧室
への隔離や防護服など医
資材の確保、管理にも多
くの人手が割かれ「病院運

を突く。

新型コロナウイルスに感

新型コロナウイルスでクラスターも